

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 1F】

事業所番号	2371001674		
法人名	株式会社 フレンズホーム		
事業所名	グループホームフレンズハウス中島新町 1F		
所在地	名古屋市市中川区中島新町一丁目502番地		
自己評価作成日	平成29年9月11日	評価結果市町村受理日	平成30年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2371001674-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日を明るく楽しく、自宅で暮らしているように過ごしていただきたいと工夫している。特に居室内は、利用者様が自由に過ごせる空間であるため、馴染みの家具や物を好きなように置いてもらい、気楽に過ごせるよう配慮している
さりげない声掛けを行い、親しみと信頼関係を築くことに気を配り、うち解けて生活する中で、残された能力を発揮できるように支援していきたいと、職員一同、同じ考えで、方向性を一つに持って努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は、家庭的な雰囲気をつくりながら、利用者が日中の時間を好みの場所で過ごすことができるような取り組みが行われている。毎日の食事については職員により調理されており、食事の際には職員もテーブルを囲みながら、利用者と一緒に食事を行う取り組みが行われている。ホームのリビングについては、広さは限られているが、窓が大きいことで採光に優れており、利用者は日中を明るい雰囲気の中で過ごしている。地域の方との交流については、ホーム近隣に新たな住民が増えていることもあり、地域の方との関係づくりが徐々に行われている。法人代表者がホーム近隣の地域住民でもある利点を活かしながら、運営推進会議の際には、法人代表者が地域住民として出席する機会をつくり、地域の方や地域包括支援センターとの関係づくりにつながる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を理解し、その人らしい生活を送っていただけるよう努力している ミーティング時にケアの意見統一を図っている	法人の基本理念をホームにおける支援の基本と考えており、ホーム内への掲示が行われている。理念の中にある、「明るく、楽しく、元気よく」を大切に考えながら、職員が日常的に意識するような働きかけが行われている。	職員間で理念の内容を意識しながら、ホーム独自の理念や目標を考えたい。よりよい取り組みにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩時に挨拶を交わしたり、公園の草取り、地域のお祭りなどに参加している	地域で行われている行事の際には、ホームからも参加するように取り組んでおり、地域の方との交流につなげている。また、法人代表者が地域の住民でもあり、地域の自治会の役員を務める等、法人を通じた情報交換の機会もつくられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学に来られる地域の方、実習に来られる学生さんに、認知症の方について話し、どのように支援しているか理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	いきいき支援センターの方、介護関係者、家族の方に、どのようなサービスを行っているか毎回報告し、話し合いを行い、要望や今後について意見の交換をしている	会議の際には、ホームの関連事業所の職員も参加することで、相互に情報交換を行いながら、ホームの運営につなげるような取り組みが行われている。また、家族については、ホームからの働きかけもあり、出席が得られるようになってきている。	会議の出席者については、新たな参加者も得られているが、限られた範囲となっている。ホームからも継続した働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護担当の方などと連絡や連携を取り合い、より良い介護ができるよう協力している	複数の生活保護の方の受け入れが行われており、担当部署との情報交換等が行われている。また、法人を経由した情報交換の他にも、区の講習会等の際には、ホームからも参加する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の施錠はしない、必要な場合は、家族と相談し、入居者様の安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援している	身体拘束を行わない方針のもと、ホーム内は出入りが可能な構造になっているため、職員間での利用者の見守りが行われている。また、外部研修等に参加する機会をつくり、職員間で資料を回覧する等の取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待は行っていない 勉強会などに参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修があれば参加してもらい学ぶ機会を設けている ホーム内での説明などはしていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を取ってきちんと説明している 家族の疑問、質問には、納得のいくまで説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ミーティングなどで話し合い、反映させている	家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも、法人事務局でも対応する体制がとられており、ホーム運営への反映につなげている。また、毎月の予定表を家族に送付しており、ホームでの取り組みを報告している。	家族との関係が困難な方も生活しており、現状、家族との交流会等の機会はとられていない。可能な範囲でも交流の機会を増やす取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見があれば、いつでも機会を設けるように対応しているが、職員側からは言い難いことも多い	毎月のユニット会議の他にも、日常的にもユニット間で申し送りの時間を設けており、職員からの意見が反映できるような取り組みが行われている。また、現場からの意見等は管理者を通じて、事務局に報告しており、改善等につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与は少し上がったが、向上心が持てるほどではない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は順に皆で受けているが、新人職員に対して、ケアの方法、技術面などの指導をして欲しい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他施設での勉強会への参加、運営会議、納涼会、忘年会での顔合わせなどしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	心配ごと、分らないこと、困っていること、不安なことを言っていたり、受け止めて説明したり、思い出話を聞いてあげ、コミュニケーションを深めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	心配ごと、困っていることがあれば聞き、安心していただけるよう努めている 家族とのコミュニケーションも大切にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	日常生活の中からのサービス、そして目的を持ったサービスへと増やしていく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支え合う関係作り、話し相手のように思ってもらい安心してもらい 相手を尊重してできることはやってもらい、不安、喜びなどを知ることに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の考えを考慮し、できるだけ添えるように対応する		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に来てくださったたり、昔から利用している美容院などへ行ったりしている 昔から使用しているタンスや家族の写真が飾ってある	馴染みの関係は徐々に困難になっているが、利用者により、入居前からの生活習慣を継続している方があり、家族との外出が行われている。また、家族と行きつけの美容院に出かけたり、墓参りや法事等を通じて、一緒に過ごす機会もつくられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の交流を、さりげなく見守り、仲たがいないように支援し、楽しく過ごせる場所作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所した方が、現況を電話で報告してくれるが、懐かしくこちらの様子も話して関係を保っている 何時でも相談や支援ができるよう、受け入れる体制はできている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自己決定を大切にしている 表情や言葉などから意向を把握し、思い通りになるよう支援してるが、どうにもできないことは、説明して理解してもらう	職員間で利用者を担当しながら、職員からの気づきが利用者への支援につながるような取り組みが行われている。日常的な申し送りの他にも、毎月のユニット会議を通じて利用者の検討を行っており、意向等の把握につなげている。	現状、利用者の関するアセスメントが十分に実施されていない現状がある。担当制も活用しながら、利用者に関する情報の把握とアセスメントにつなげる取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所する前のサマリーや生活環境の資料などを読み、理解している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルチェックを毎日行っている 前日の日誌、申し送りなどで、連絡、報告し、一日の過ごし方、心身状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネを中心に介護者の意見など検討して作成している	介護計画の作成と見直しはユニット毎に異なっているが、利用者の状態等にも合わせながら、3か月から6か月での見直しが行われている。また、毎月のユニット会議を通じた、状態等のチェックを実施しながら、3か月でのモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に、食事量、水分量、排泄の状況、日々の様子を記録し、問題点があれば話し合い、それに基づいて行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	サービスが終了したり変わった時は、新たなサービスと取組み、家族の要望など、臨機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの方達の訪問で、生活に活力を持っていただき、やる気を感じて、喜び楽しんでいただく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	希望があれば、そちらの病院に受診していただく 基本的にはホームの協力医の往診を受け、適切な医療を受けている	訪問診療専門の医療機関と連携しており、状態変化に合わせた医療面での柔軟な対応が行われている。家族による受診が難しい方もいるため、職員による受診支援も行われている。また、協力医療機関の看護師での連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	早期発見に取り組み、看護師に報告している 気づきがあれば、訪看時に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーをすぐ送り、医療機関同士の情報交換も、速やかに行っている 入院中の情報も、連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族の意向に沿って、医師、職員が連携を取り、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる	利用者の状態や家族との話し合いを重ねながらホームでの看取り支援を行うこともあり、実施にホームで最期を迎えた方もいる。利用者の状況等にも合わせながら、関連の特養や有料老人ホーム等での案内も行って、柔軟な対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時は、マニュアルに基づき、すぐ家族や医師に連絡し、指示を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行っている マニュアルを作成し、それに基づき、行動ができるよう理解している	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われており、職員間の連携に取り組んでいる。また、フロア毎に必要な備蓄品の確保が行われている。地域の方との連携については、継続的なテーマでもある。	水害が想定される地域でもあるため、今後の水害を想定した必要な取り組みに期待したい。また、地域の方との継続的な協力関係の構築にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様を尊重し、本人の気持ちを大切に するよう心掛け、笑顔や言葉使いに気を付 けている	職員間で理念の内容を振り返りながら、利用 者への言葉遣いや対応を意識するよう取り 組んでいる。職員による対応で管理者が気 になった際には、職員に注意を促すような取 り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている。	個々に合わせた声掛けをし、利用者様の希 望を聞いて、自己決定ができるよう支援して いる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペースに合った生活をしていた だけよう、本人の気持ちを大切にして、で きるだけ個性のある支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している。	季節に合った衣類をきていただき、その人ら しさを表せる身だしなみをしていただく 外出する時は、本人の着たいものを身につ けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている。	食べやすいように工夫している 好みや苦手なものを踏まえてメニューを工 夫し、職員も一緒に食べている 下膳など、できる人には手伝ってもらう	職員でメニューを考えながら、利用者の好み や嗜好にも配慮している。利用者により、出 来ることに参加することもある。また、おやつ 作りの取り組みや行事等の食事作りが行わ れており、食事の際には、職員も一緒に食事 を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている。	食事量、水分量は、個々に確認している 個々に食べやすい大きさや量に配慮してい る 居室に、ペットボトルにお茶を入れて 持って行く人もいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている。	毎食後、声掛けをしたり、誘導して、口腔ケ アを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を記録し、パターンを知り、身体機能に応じた介護をしている 紙パンツやバットなど使用し、自立できるよう、トイレでの排泄を心掛け支援している	利用者毎に排泄記録を残しており、ユニット毎に行われている申し送り等を活用しながら、職員間で情報の共有につなげ、トイレでの排泄につなげている。また、排泄に関する医療面の連携にも取り組みながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	十分な水分補給に気を付け、献立に乳酸菌や野菜を取り入れ、毎日の体操や運動にも気を付けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	決められた曜日の決められた時間に行っているが、ゆっくり入りたい人は、順番を後に回すなどと、工夫している	入浴については、週3回の午後の時間に行われており、入浴を拒む方についても、声掛けを工夫する等で入浴につなげている。また、浴室については、リフトの設置が可能であるが、現状は職員による対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	こまめに居室の温度を管理し、なるべく日中の活動に配慮している 状況に応じて休んでもらったり、眠剤服用の人は、睡眠状態の把握に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	説明書を読み、気になる薬は、内容を把握している 服薬は、本人に手渡しし、服用できているか確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーション、散歩、喫茶ツアー、外食、季節の行事など、その人に合った気分転換をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、食べたいものを聞いての外食、買い物などに出掛ける 家族が、連れ出して、行きたい所へ連れて行ったりもしてくれる	季節や天候等、その日の状況等にも合わせながら、ホーム近隣の散歩等の取り組みが行われている。季節に合わせた外出行事等の取り組みが行われている他、法人を通じた外出行事への参加も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自ら管理できる方は持っている できない方はホームで管理して、欲しいものがあれば、ホームで購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を家族の協力で持って、自由に使っている人もいる 希望があれば、ホームの電話を使用してもらっている 手紙も、頼まれれば投函する		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合ったフロアの飾り付け、入所者の方々の状態に合わせた家具やテーブルの配置の工夫をしている 明るい空間で気持ち良く過ごしていただいている	ホーム内は限られた広さであるが、テーブルやソファの配置を工夫する等しながら、利用者の居場所づくりにつなげる取り組みが行われている。また、壁には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品などの掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファ、テーブルの配置の工夫などで、落ち着いて過ごすことができ、また、気の合った利用者様同士で話し合いもしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	思い出の品、使い慣れた家具など持ち込み、寂しくなく安心して過ごせるよう、居心地の良さに配慮している	居室には、好みの家具類や化粧台等を配置する等の取り組みが行われており、利用者に合わせて居室づくりが行われている。利用者の中には日中を居室で過ごしている方もあり、職員による見守りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室、フロア、トイレ、浴室が、機能的に設計されており、また、心身状態の変化に考慮した環境作りに努めている		